



将来を担う子どもたちに より良い教育環境を提供するために

No.3 九戸村学校再編だより
平成31年1月9日発行

九戸村では、小・中学校がお互いに情報交換や交流を行い、小学校から中学校へつながる「小中連携教育」を進めています。その中で、次の5つの教育課題があります。

① 中1ギャップへの対応

小学校での少人数での学習・生活から、中学校での集団の中での人間関係づくりなどに不安やストレスを感じ、学校不適應等に陥る子どもたちがいます。

② 特別支援教育の充実

障がいの有無によらず、学習や生活に難しさを抱える子どもたちに、より細やかな支援を行うとともに、子どもたち同士の交流を図り社会性を養うことが必要です。

③ 学力の保障と質の高い授業

小中9年間で子どもたちを育てるため、授業を改善し、学習効果をより高めていくことが求められます。

④ 小中教職員間の相互連携

小中学校の教職員全員で一人一人の子どもたちを理解し、指導に生かすことが必要です。

⑤ 英語教育の充実

平成32年度から、小学校3・4年生に外国語活動、5・6年生は外国語科が導入され、中学校との接続を意識した指導が求められます。

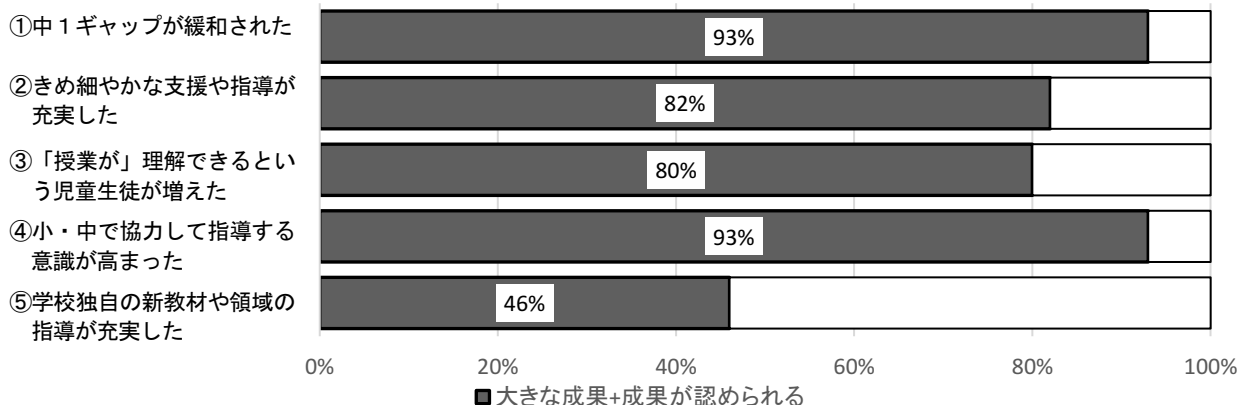
本村では、これら5つの教育課題解消のため、小中連携教育を更に進めた「小中一貫教育」を導入します。小中一貫教育を実践する先進地等で行った文部科学省の調査結果の成果を生かし、上記課題解消につなげていきます。

小中一貫教育とは、

- 小・中学校の全教職員で育てる **子ども像を共有**し、
- **9年間を通じた教育課程を編成**し、
- **系統的な教育**を目指す教育です。



「小中一貫校教育等についての実態調査」の結果から



(住民説明会・意見交換会資料より一部抜粋)